

2019 年度 A O 選抜 文学部 日本文学研究学域  
「課題論文方式」

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
日本文学研究学域	18	4	4

**2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>**

(1) 評価ポイント

以下の3点を評価のポイントとしました。

- ① 課題論文のテーマ・着眼点が独創的であり、日本の文化・文学について、立命館大学文学部で専門的に学びたいという意欲が溢れているか。
- ② 受験生自身の言葉で、学問に対する情熱を表現できているか。また、理路整然と論述できているか。
- ③ 大学で教育を受け、研究を行うのに必要な基礎知識・文章執筆能力を備えていると確認できる内容であるか。

(2) 解答状況

上記「(1) 評価ポイント」に記した3点について、

- ① オリジナルなテーマ・着眼点を提示する論文は僅かでした。当たり前のことを当たり前に書いているだけでは、高評価は得られません。作家や作品が好きだからもっと研究したいではなく、好きな作家や作品のどこが具体的に面白いのか・優れているのか、また、なぜそれを自分が研究しなければならないのかについて丁寧に説明できている論文が高い評価を獲得しました。
- ② 徹底的に添削され、きれいにまとめられた可もなく不可もない ES・論文よりも、荒削りな文章・語彙ではあるが受験生自身の姿を想像させるようなインパクトのある ES・論文が高い評価を得ました。課題論文では一部、読書感想文と論文の差異を理解できていないものがありました。
- ③ 大学で求められるのは、自らの考えを誤解なく他者へ通じるように表現する能力です。思考を他者への的確に伝達するためには、論文の形式・論理・エビデンスが必要不可欠です。大学で専門的な教育を受けたら、きっと優れた成果を出せるはずだと思わせるような論文には、これらの要件が備わっていました。未知の他者（読者）へ言葉を送るとはどういうことか、そのためにはどう書けばいいのかを意識して執筆することが大切です。

**3. 第二次選考**

(1) 評価ポイント

問題文を正確に読み取り、課題の出題意図を正しく理解したうえで、論理的かつ読

み手にわかりやすく自分の意見を論述できているかを評価のポイントとしました。

(2) 解答状況

概ね上記「(1) 評価ポイント」で示した内容をクリアしており、適切に要約・意見論述ができていました。

(3) 試験（面接）内容

課題論文は、ハイパーリンクが文章読解に与える影響について論じた新井紀子氏の文章を要約した上で、文学作品のデジタルコンテンツ化に対する意見を論述するものでした。

面接は、当日作成した課題論文の内容や、一次選考で提出された ES・課題論文の内容をもとに質疑応答を行いました。

(4) 出題（面接）の意図

課題論文試験では、問題文を正確に読み取る能力、それを要約し他者（読者）への確に伝える能力、自らの知見を交えて問題文に対する賛否を論述する能力を見極めるために実施しました。面接試験では、自身の言葉で他者と意思疎通できるかどうかというコミュニケーション能力と、これから専門の勉強を行っていくために必要な知識や情熱を備えているかを再確認するために質疑応答を実施しました。受験生は概ね、難しい質問にも臨機応変に対応できていました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

興味関心の範囲を制限せず、幅広い分野・領域に目を向けて、そこで起こっている事象について、じっくり考えてみてください。例えば、小説や漫画を紙の本だけで読む時代は既に過去のものとなり、現代では PC やスマホなど様々なメディアで私たちは本を読んでいます。今では当たり前となった読書行為ですが、そこには既成の文学の常識、あるいは「本」とは何かという観念をひっくり返すほどの大きなインパクトがあるのです。そうした事柄に驚きの目を向け、日常の何気ない出来事を自己に関わる問題として深く思考できる人を私たちは求めています。

以上